



日本赤十字社

赤十字おきなわ

第65号
2021.10



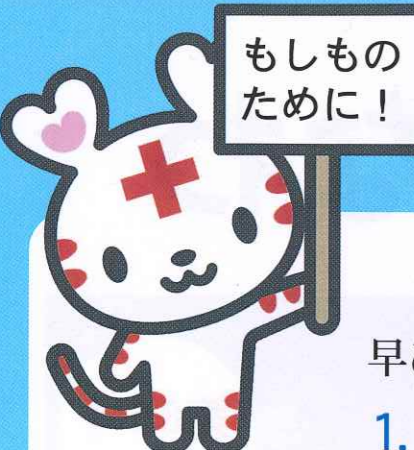
金城町石畳道（那覇市）



- ・ 災害からいのちを守るための日頃の備え
- ・ 災害時の赤十字活動
- ・ 日本赤十字社沖縄県支部の活動



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



災害からいのちを守るための日頃の備え

災害からいのちを守るためには日頃から自ら備えておくことが必要です。

住んでいる地域を知る

早めに安全な場所に避難するためには、自分の住んでいる地域にどのような危険があるのか知っておく必要があります。

1. ハザードマップで確認する

- ▷ 被災想定区域
- ▷ 避難場所
- ▷ 防災関連施設



住んでいる地域を知るためには、自治体などが作成するハザードマップが有効です。ハザードマップから、地域の危険や避難場所、防災関連施設などの情報を入手することができます。



2. 街歩きをする

避難場所までは自宅からどのくらいかかるのか、また、避難場所以外の身近にある安全な場所を見つける場合もあります。

- 距離・身体的疲労は？
- 津波避難の標識は？



- 古く倒れそうな建物・塀は？
- 防災上役に立つモノは？

安否確認の方法を決めておく

災害時、電話は通話規制が行われます。家族や知人等とは災害時の連絡方法を予め決めておきましょう。

1. 公衆電話

災害時には一般電話や携帯電話よりもかかりやすくなっています。公衆電話の設置場所の確認、10円玉や100円玉の準備をしておきましょう。



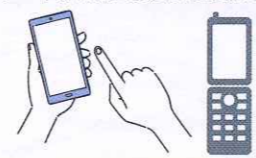
2. メッセージボード

避難先や家族の状況をメッセージボードや紙などのメモに残して避難すれば、心配して訪ねてきた人を安心させることができます。



3. 災害用伝言版

災害時に提供されるサービスで、携帯電話・スマートフォンから自分の安否状況を登録することができます。その情報は、家族などがインターネットなどを通じて確認できます。



4. 災害用ダイヤル「171」

通信がつながりにくい状況になった場合に、携帯電話・スマートフォンなどから音声で録音したり再生できる声の伝言板です。「171」に電話をかけ、録音・再生を行います。



ご近所との日頃からの付き合い

阪神・淡路大震災で、倒壊した建物に閉じ込められた人を助けたのは、消防や警察、自衛隊などではなく、大半が地域の住民でした。このように地域の住民による救護活動や、避難する際の声かけなどをより円滑にするためには、日頃からのご近所との付き合いが重要です。日頃からあいさつをする、自治会に入る、防災訓練等の地域の様々な活動に参加するなどして、地域の人を知るとともに、人に知ってもらうことが大切です。



赤十字防災セミナー

日本赤十字社沖縄県支部では、町内会、自治会といった地域住民の方々を対象に赤十字防災セミナーを実施しています。一人ひとりが災害と向き合い、被害をより小さくするために必要な備えについて一緒に考え、話し合いましょ。



非常持ち出し品の準備

それがないと生活に支障が生じるモノは一人ひとり違います。自分自身で必要なモノを準備して、非常持ち出し袋などに入れておきましょう。また、非常持ち出し袋はすぐ取り出せる場所に置くとともに、自分自身で持って歩ける重さにしましょう。

貴重品

※以下は、現物を持ち出せなかった場合に備えて、必要に応じてコピーを入れておく

- 身分証明書
- 健康保険証
- マイナンバーカード
- 母子健康手帳
- 印鑑
- 現金
- お薬手帳
- 銀行の口座番号・生命保険契約番号など

情報収集用品

- 携帯ラジオ
- 家族の写真 (はくれた時の確認用)
- 予備の電池
- 携帯電話
- 小銭 (公衆電話用に10円玉・100円玉)
- 家族ルール
- 家族との災害時の取り決めメモ
- 非常用携帯電話充電器
- 予備の電池
- 筆記用具

便利品など

- 懐中電灯
- 防災ずきん またはヘルメット
- 予備の電池
- マスク
- 万能ナイフ
- HOT ホットカイロ
- 手袋
- ビニール袋
- アルミ製保護シート
- 毛布
- 雨具
- マッチかライター
- スリッパ
- 給水袋
- レインコート

食料など

- 非常食
- 飲料水

清潔・健康のためのもの

- 救急セット
- 常備薬
- タオル
- 歯ブラシ
- ティッシュペーパー
- トイレペーパー
- 着替え
- 下着

個々の実情に応じて必要となるもの

- 紙おむつ (幼児用・高齢者用など)
- 生理用品
- 予備の眼鏡、杖など自分の生活に欠かせないもの

【非常持ち出し品リストの参考例】あなたが必要なものを考えてみて下さい。

災害時の日本赤十字活動 救えるはずの命を諦めたくない。それが私たちの原動力です。

災害が発生！



地域のインフラ機能停止

治療や薬の処方うけられない

生活に必要な物が揃わない

災害発生

直ちに急行！

赤十字の医療救護班は、全国に配備されているため、日本のどこで災害が起きても、すぐに現場へ駆けつけることができます。

医療救護




救う

巡回診療



医療機能が停止した地域には医療救護班が直接出向き、ご自宅や避難所で診療を実施します。

救援物資の配付



備蓄している毛布、安眠セット、緊急セット等の救援物資を配布します。

支える

保健衛生



長期化する避難所生活により体調を崩される方が多発するため、継続的な健康管理を行います。

こころのケア



被災された方のストレスを少しでも軽減するために、心理的・社会的なサポートを行います。

寄り添う

命を繋ぐ




被災された方々が少しずつでも前を向いて歩いていけるよう、安心と笑顔をお届けすること。子どもたちの未来のために、災害の教訓を次の世代へ繋いでいくこと。どちらも私たちの大切な使命です。

未来へ



これからも安心して暮らせる社会のために
日本赤十字社への
ご協力をお願いします。

日本赤十字社沖縄県支部の活動

新型コロナウイルス対応（令和3年度）

日本赤十字社は、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいます。日本赤十字社沖縄県支部でも、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部への職員派遣や、医療機関への物資（テント、機材等）の貸出し、教育現場での啓発活動を行うなど、感染拡大防止に努めています。

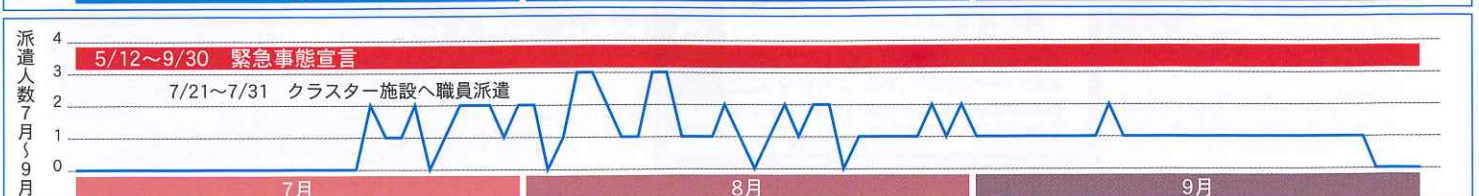
職員の派遣

日本赤十字社沖縄県支部では、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部立ち上げ当初(R2.4.8)から、同本部への職員派遣を続けています。また、同本部の要請を受け、クラスター施設や離島へも職員を派遣し、沖縄県内の新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めています。

派遣された職員は、沖縄県庁職員、各医療機関、厚労省、自衛隊、海上保安庁、DMAT、DPATなどと共に業務にあたり、感染者の入院調整業務、健康観察業務や医療コーディネーターの補助業務、クラスター施設内の対策本部運営業務などを実施しています。



令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
派遣人数(延べ)	47名	55名	21名	16名	44名	27名	210名



日本赤十字社沖縄県支部の活動

災害救護連絡車の納車

南城市地区と北中城村分
区へ災害救護連絡車が納車
されました。

本来であれば各地区分区
長をお招きして贈呈式を執
り行うところでしたが、新
型コロナウイルス感染症に
よるまん延防止重点措置の
発出を受けて式典は中止と
なりました。

災害救護連絡車は、災害発生時に
各地区分区から被災者への物資の輸
送等様々な業務に使われることが想
定されます。

今年度納車された2台の車両につ
いても、災害発生時はもちろんのこ
と、平時においても各地区分区の地
域住民への赤十字思想普及の一助に
なることを期待します。



ラジオで赤十字を紹介

5月8日(土)ラジオ沖縄「てるてるソーレ」
に当県赤十字職員が生出演し、県内赤十字施設や
その事業を紹介しました。

これまでは、毎年5月に「赤十字ふれあいフェ
スティバル」と称し、赤十字事業を紹介するイベ
ントを赤十字敷地内にて開催しておりましたが、
今年はコロナ感染防止の観点から中止とし、ラジ
オを通じて県民の皆様へ赤十字事業を紹介する形
となりました。

番組には、支部職員の井上主事と血液センター
職員の又吉主事が参加し、パーソナリティの北山
亭メンソーレさんと、保良光美さんらがリスナー
からの赤十字に関するメッセージや疑問・質問に
お答えしました。リスナーからは、「定期的に献
血に協力しています」や「赤十字病院で子供を出
産しました」など、県民の方々の赤十字にまつわ
るメッセージが多数寄せられました。



青少年赤十字オンライン交流会

東京都× 沖縄県

6月20日に「東京都×沖縄県青少年赤十字高校協議会オンライ
ン交流会」が開催されました。

本交流会は、コロナ禍により様々な行事が中止となるなか、沖縄県青
少年赤十字高校協議会メンバーが中心となり、県外のメンバーとお互
いの活動を共有し、新たな活動への視野を広げることを目的として企
画されました。

当日は、高校生14名と支部職員ら合計18名が参加し、それぞれの
活動紹介、献血講話、グループディスカッションなどで交流しまし
た。参加者からは「東京都のメンバーの活動を知ることができてとて
も楽しかった。今後の活動の参考にしたい。」などの感想が聞かれま
した。

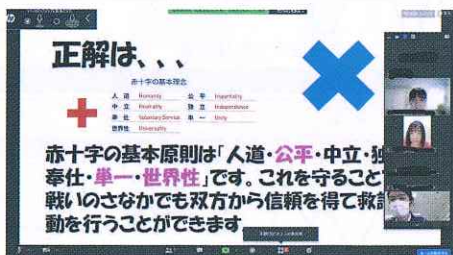


沖縄県内の交流

8月15日に沖縄県青少年赤十字オンライン交流会が開催されまし
た。青少年赤十字では、例年8月にリーダー育成のための宿泊研修を
開催していましたが、今年はコロナ禍により中止となりました。

青少年赤十字高校協議会のメンバーらは代替案として、他校との交
流を目的としたこの企画を
立ち上げました。

当日は12校の高校から
生徒・指導者ら50名余り
がオンラインで繋がり、各
学校の活動共有、オンライ
ン救急法、赤十字〇×クイ
ズなどで交流しました。



医療従事者への感謝のメッセージ贈呈式

7月16日に、首里中学校福祉委員会の皆さんが
県支部を訪問し、医療従事者への感謝の気持ちを
綴ったメッセージ集を沖縄赤十字病院の看護師に
手渡しました。

この企画は福祉委員会のメンバーが立案し、校
内に募集場所を設置し、生徒が書き寄せたもの
で、総数は300件を超えるものとなります。

贈呈後、普段接することの少ない看護師に対
し、生徒から様々な質問がかけられ、予定時間を
大きく超えての交流がなされました。

メッセージには、「皆のためにありがとうございます。
皆さんに負担をかけないよう、消毒・手
洗いを徹底して続けます」など、コロナ感染予
防への決意の
言葉などがあ
りました。



赤十字の活動資金にご協力をお願いします

赤十字は、災害時の救護をはじめ、講習普及事業、ボランティアの育成、国際活動、医療、献血事業など、人々の健康で安全な暮らしを守るため、幅広い活動を行っています。

これらの活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。

あなたのご支援で出来ること



2,000円のご寄付で

感染症防護具

感染症まん延状況下で救護活動を実施する際に必要な防護具（マスク、フェイスシールド等）約2人分を備えることができます。



3,000円のご寄付で

安眠セット

避難所で少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



5,000円のご寄付で

緊急セット

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが収納された「緊急セット」を4人分備えることができます。



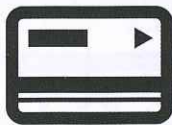
10,000円のご寄付で

小児用シロップ薬

日本では簡単に完治するような風邪の症状で、多くの子供がいのちを落としている国や地域に「小児用シロップ薬」500人分を届けて尊い命を救えます。

活動資金へのご協力方法

クレジットカード



Webサイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみの3種類からお選びいただけます。

銀行振込



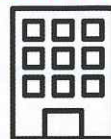
郵便局（ゆうちょ銀行）や銀行などでご寄付専用口座を開設しております。また、手数料が免除となる専用の振込用紙がありますので、沖縄県支部までご連絡ください。

口座引落し



指定の預金口座から自動引落でご協力いただけます。※専用の振込用紙の記載が必要となりますので、沖縄県支部までご連絡ください。

お近くの窓口



日本赤十字社沖縄県支部やお住まいの市町村役場の赤十字担当窓口で受け付けています。また、コンビニエンスストアにある情報端末でもご寄付いただけます。

遺贈によるご寄付



自身や故人の財産の全部または一部を日本赤十字社へご寄付いただけます。沖縄県支部までご相談ください。

表彰制度

日本赤十字社の活動資金にご協力いただいた場合は、その金額に応じて表彰制度を設けています。

銀色有功章	20万円以上に達した方
金色有功章	50万円以上に達した方
日本赤十字社社長感謝状	金色有功章受章後、50万円以上に達した方

※そのほか、国の表彰もあります。



税制上の優遇措置

日本赤十字社にご寄付いただいた活動資金は、個人の所得税や企業などの法人税での優遇措置が受けられます。また、ご遺族が相続された財産を日本赤十字社に寄付することによって、相続税での優遇措置が受けられます。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

沖縄県支部

那覇市与儀1-3-1 ☎(098) 835-1177

日本赤十字社沖縄県支部

検索

ホームページをリニューアルしました



沖縄赤十字病院

那覇市与儀1-3-1 ☎(098) 853-3134

沖縄県赤十字血液センター

那覇市与儀1-4-1 ☎(098) 833-4747

日赤安謝福祉複合施設

那覇市安謝2-15-2 ☎(098) 862-4321